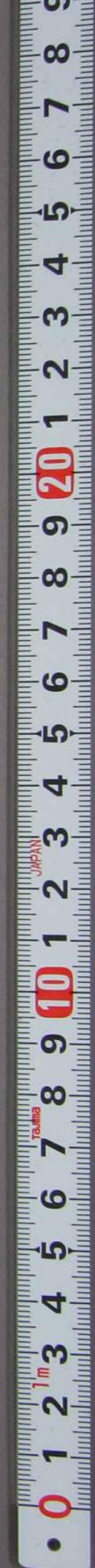




人
亨利・フォード
ボルト
ト建言
将来金ノ産出
増減如何ノ論



328



114
A 4503



前田利器 譯

大正十一年四月
隈侯爵邸寄贈

謹呈陳
告書ヲ閣下ニ進呈スルノ蒙ヲ有ス又^儲右ノ報告唇ハ將未金ノ
産出増減如何ニ就テ窺モ適切至当ナル主趣ヲ依テ以テ編纂集
録マシモノナリ

抑々銀ヲ本位トシ又ハ金ヲ本位トシ又或ハ金銀両本位トスル
ノ利害得失ニ関シテハ從來議論屢々起リタリ到底右議論ハ金
銀中將未孰レカ増シ孰レカ減スベキヤニ就テ本位トシテ將未
差^ハ洞ヲ生セザルモノニ歸スルハ喋々ヲ待タサル所ナリ
蓋シ彼ノ至貴至重ナル金ハ之レヲ銀ニ比スレバ將未僅少ニ至
リ然ラザレバ全ク不足シテ其ノ需要ニ應スルヲ得ザルベキハ
必然ナルベシ爰ニ於テ今余ハ試ミニ此ノ報告唇ヲ以テ之レヲ
証明セント欲ス恐惶頓首謹言

一千八百七十八年十一月十九日

東京

ヘンリー・フォシター・ゴルト

日本皇帝陛下大藏卿

大隈重信殿閣下

将来金ノ産出増減如何ヲ論ス

夫レ彼ノ至貴至重ナル金ノ産出ハ人口ノ増殖又ハ採金術ノ進歩ト共ニ益々増多ニ至リタリ抑モ金ノ産出曾テ増多ニ至リレハ第二ニ貴重ナル銀ノ如ク著大ニハアラザルナリ其故ハ金銀ハ総テ相結合シタルモノニシテ金ノ産出ヲ増スハ又銀ノ産出ヲ増ス下金ノ産出高ニ比スレバ遙カニ多キヲ以テナリ是ヲ以テ又今日ニ於テハ金ノ産出少シク減少ノ状ヲ顯スト虫氏銀ハ稍マ増加ノ状アリ

凡ソ世界各國ヨリ産出スル金ノ総額中六分ノ一即チ二千万円ニ値ルノ礦物ハ其ノ組成銀分ヲ含有スル下金分ニ比スレバ遙カニ多キニ居レリ是レ則チ金ノ産出ノ些少ニシテ銀ノ産出増加スル所以ナリ

然レ氏^此年産出セシ金銀ノ額ヲ共計スルニ其ノ供給ノ需求ニ
超過スル下送カニ多シ然レ氏斯ノ如キ美事ハ蓋シ永續シ難カ
ルベシ其故何トナレバ所謂ル産金地ナルモノハ一年ハ一年ヨ
リ減シテ将来金ニ重要ナル職ヲ任セントスルモ得ベカラザル
ニ至ルヤ必然ナリ

夫レ金ハ人々ノ能ク識知スル如ク其ノ重職タルニアリ即チ金
ノ過半ハ之レヲ換用シテ流通貨幣トス是レ其一ナリ又其二ハ工
業上金ノ所要多クシテ金細工物ノ世上ニ現出スル其ノ種類形
状枚挙ニ違マアラズ是レ其二ナリ而シテ工業上ニ金ヲ用フルハ
将来倍々増加スルナルベシ

譬令バ^バ墾地利國ニ於テ所謂ル^フ。ン^シ。リ^ン。グ^{。ロ}。ウ^{。各}種^ナル^金
ノ極印ヲ定ムル法^テ其^{ナル}モノアリテ詠國民詠法ニ從テ金細工
物ノ極印ヲ受ケザルモノナレ其故ハ後述其ノ金細工物ヲ造幣

向へ出シテ金貨ト兌換セントスルニ當リ其ノ品物ヲ製造セシ
時該品中若干ノ金分ヲ含有スルヤヲ証明スルヲ得ベキヲ以テ
ナリ

斯テ墾地利國ニ於テ極印ヲ受ケタル金ノ額ハ千八百六十七年
ニ於テハ九十七万八千三百三十七^フ。ロ^{。リ}。ン^ハ。一^{。四}。十^{。二}。錢^ニ。當^ル。以下
之ニ准ニ達シヌタ一千八百七十二年ニ及テハ其ノ額増加レテ
三百万三千三百三十二^フ。ロ^{。リ}。ン^ニ。至^リ。タリ

又タ銀ノ極印ヲ受ケレ額ハ右ノ年内ニ増加シテ百一十一万〇七
百二十二^フ。ロ^{。リ}。ン^ヨリ二百七十四万六千百〇一^フ。ロ^{。リ}。ン^ニ。至
リヌタ千八百七十五年ニ於テ金ノ極印ヲ受ケレ額ハ百九十五
万七千七百八十九^フ。ロ^{。リ}。ン^ニ。シテ同年代ニ於テ銀ハ百八十三万
八千四百二十五^フ。ロ^{。リ}。ン^ナリキ

前文ニ掲示シタル金銀ノ額數ニ依テ觀レバ金ノ増額ノ願ル迅

透ニレテ千八百六十七年ニ於テハ銀ノ額金ノ額ニ比スレバ夥
 多ナリシモ千八百七十二年即チ僅カ五載ノ星霜ヲ経ル間ニ金
 ノ額ノ増加セシヤ瞭然タルベシ

右ノ如ク銀ノ額漸次減サシ金ノ額ノ増加セシハ佛蘭西ニ於テ
 モ亦經驗ヲ以テ明白ナル所ナリ斯ク銀ノ産出減サセシヲ以テ
 現今ニ於テ日用品ニ純銀ヲ以テ製造セシモノ甚タ稀サナリシ
 ハ敢テ怪ムニ足ラザルベシ是レ則チ各種ノ金屬ヲ混和複合シ
 テ以テ銀ニ代用セシヲ以テナリ

一千八百三十年ヨリ七十八年ニ至ルマデ佛國ニ於テ所用セシ
 金ノ額數ヲ算セシニ年々千三百萬フランク五「フランク」ハ凡ソ
我ガ一圓ニ當ル
 スタ銀ノ額數ヲ算セシニ九百萬フランクナリ然ラバ則チ千八
 百四十八年ヨリ金ノ額數増加シテ二千〇四萬フランクニ達
 シ又タ銀ノ額數ハ八百六十萬フランクニ至リタリ

其他ノ推算ニ依レバ千八百五十年ヨリ六十九年マデ費消セシ
 金ノ總額ハ八億二千五百萬フランクニ達シ銀ハ三億六千四百
 萬フランクニ至リシヲ証明ス

英國試驗分所アズヤイ、オフ、サノ年報ニ由レバ銀ノ額ノ逐次ニ減サシテ金ノ
 増加セシヲ明示スルニ足レリ即左ノ如シ

年	種類	數量	種類	數量
		オンス		オンス
一、八五五	金	九、九一四	銀	八三七、九二〇
一、八六〇	金	一二、五一六	銀	四七九、八九三
一、八六五	金	一〇、三一三	銀	七二五、〇一三
一、八七〇	金	一三、九六六	銀	六〇九、七六〇
一、八七五	金	二三、八五六	銀	七六六、二一三

右ニ表示スル所ヲ以テ觀レバ僅カ十載ノ星霜ヲ経ル間ニ金ノ
 増殖シテ十年前ニ比スレバ其ノ額一倍以上ニ及ヒタルハ昭々

子トシテ明白ナリ

前条ニ詳説スル所ヲ一目スレバ金ノ増額饒多ニシテ且ツ金細
工ニ用フル所ノ夥多ナル額ハ熔解スル金ノ総額即チ二十五万
ポンス乃至三十万ポンスニ下ラザルヲ証明スルニ足レリ
千八百七十四年ニ於テボルミンハムノ試験分折所ノ試験セシ
高ヲ精算スルニ十二万ポンスニシテ爾後其高ノ増加スルヲ年
々二万ポンスヲ以テ算セリ

新タナル細工物ヲ企テ之レガ為メ金ヲ所要スルヲ年約三千
万フランクニシテ此ノ後金細工ノ為メニ其ノ所要ヲ増スルヲ年
々二百万フランクナルベシ

又タ視点ヲ換テ印度國ヲ觀ルニ後未該國ニ輸入セシハ銀ノミ
ナリシガ目今莫大ノ金ノ該國ニ輸入スルヲ知ルベシ抑モ該國
人民ハ餘財ヲ以テ利子ヲ生スヘキ公債証券ニ換ヘテ貯蓄セス

唯タ其ノ餘財ヲ以テ金又銀ノ貴重ナル物品ト交換スルノミ

右ノ故ヲ以テ印度國へ輸入セシ金ノ総額ハ之レヲ流通貨幣ト
セス必ス百種ノ飾装物ニ變造ス而シテ四十年間ニ其ノ飾装物ニ
變造シタル金ノ額増加シテ二十五億万フランクニ及ベタリ

右ノ如ク莫大ノ金ヲ飾装物ニ變造スルハ歎ケモ尚餘リアリ何
トナレバ飾装物ノ為メニ金ヲ要スル所ノ額ハ一年ハ一年ヨリ
増加シ又ハ貨幣ニテ使用シ其間ニ消耗セル金ノ額ハ一個ノ金

貨ニ就テ之レヲ計ルハ実ニ九牛ノ一毛ナルモ若シ數多ノ金
貨ニ就テ之レヲ算スルハ決シテ僅クナラサルヲ知ルヘキナ
リ

又歐洲各國ノ巨大ナル各銀行ノ預リ金ハ千八百六十八年ニ於
テ二十一億九千二百万フランクナリシガ千八百七十六年即チ
八載ヲ出テヤリシニ一倍以上ニ増加シテ四十四億七千万フ

バンクニ及ヒタリ

右ノ如クナレバ第一ニ論定セラルベカラサル至重ナル問題ハ
金本位ヲ用フルト共ニ現出スベキ形状如何ト目今金ノ充分ニ
シテ金ヲ本位トスルヲ得ルモ将来其ノ需要ニ應スルニ足ルベ
キヤ否トニアリ

儲蓄テ日耳曼ニ於テニ、ツケル一金属ノ貨幣ヲ鑄造シタリシ時
ニ該金属ノ價格騰昂シテ旧時ハ價ニ比スレバ三倍ニ至リタリ
キ當時該金属ヲ貨幣ニ用ヒレハ該國ノミナルスラ其騰貴スル
既ニ此ノ如シ況ンヤ若シ其他各國モ亦貨幣ヲ鑄造ヲ改メテ該
金属ヲ用ヒナバ該金属ノ價格一層騰昂シテ當時ニ在テ該金属
ヲ買収スルハ思箱ナルヘキ程ニ至ルナラシ是レ亦論ヲ俟タス
シテ明カナリ蓋シ價ノ低昂スルハ金属モ亦普通一般ノ一商品
ノ價格低昂スルト同一理ニシテ若シ世上ノ需求増加スレハ則

チ其價格從テ騰昂シ價格騰貴スレバ則チ從テ其供求増加スル
モノナリ

然レモ若シ該金属ノ産出額需求ニ應スルニ足ラサルハ其價ハ
間接ニ於テ益々騰昂スベシ

差ニ余ハ一例ヲ挙テ示サン「アラチナ」ヲ以テ貨幣ヲ鑄造セント
スルモ該金属ノ鮮少ナル故ヲ以テ到底之ヲ実行スル能ハサル
ベシ

其類一ナラス即チ第一ニハ其額ノ過半貨幣ノ種類ニテ世上ニ
流通スルアリ第二ニハ地金ノ類ニテ銀行紙幣ノ抵当トシ各銀
行ニ備フルアリ第三ニハ右ノ如ク各銀行ニ備フル地金ニ比ス
レバ稍ヤ少額ナルモ亦地金ノ類ニテ商業上高品ノ一種ナルモ
ノアリ第四ニ飾装物ノ類(仮令ハ印度國ニ於ケルカ如ク)トナス

アリ或ハ空ク人民ノ囊中ニ存シテ世上ノ用ヲナサバモノアルナリ

金産地ヨリ産出スル金ノ支那人ノ手ニ入ルヤ其額著大ニシテ而シテ直ニ之レヲ支那國ニ輸入シ一度該國ニ輸入スレハ再ヒ世上ニ流通セス

支那ハ人口無教ニシテ其多キテ恰モ人ノ海ヲ成スガ如シ然ラハ則テ該國人民ノ其金ヲ使用シ且消費スル金モ亦鮮クナラス右ノ外産金地ニ於テ此ノ地ヲ開ク者ノ為メノ費用ニ供スル金アリ此ノ如クナレバ産金ノ歐洲各國ニ輸入スルモノアルナシ又輸出シタル産金ノ中多クハ百科ノ工業ニ用キ又其他ハ既ニ金ヲ本位ニ定メタル國々ニ於テ金本位ヲ充分ニ守ル為メニ要セリ

右ノ如クナレバ年々産出スル金ヲ年々要スル所ノ金ニ比スレ

バ産金額遜ニ僅ナルベシ然ラハ則テ仮令ヒ將來其産出額ニ増減ナレトスルモ到底歐洲一般ニ金本位トスルニハ足ラサルベシ

金本位ヲ用キントセバ爰ニ頗ル重大緊要ナル問題アリ第一ニハ今日ニ於テ金産地ニ幾許ノ金ヲ含有セシヤヲ推考調査セサルベカラズ然ラハ則テ將來需要スベキ金ヲ漸然採取スルヲ得ヘキヤ否ヲ了解スベシ又第二ニハ新カナル金産地ヨリ幾許ノ金ヲ採取スルヲ得ヘキヤヲ推考調査セザルベカラサル等是レナリ

当時一ケ年間ニ産出セル金ノ額ハ人々ノ能ク識知スル如ク實ニ需求ニ應スルニ足ラス故ニ人々金産地ヲ検出セサルヲ得ス

然レモ若シ歐洲各國ニ於テ金本位ヲ採用セントナラハ先ツ二

箇條ノ預備ヲ要ス第一ニハ必要ナル金ヲ製造スル一第二ニハ
金本位トナスニ當テ不用ナル銀ヲ除去スル一是レナリ
右ノ如キ時ニ至テハ必ス銀價低落ニ(需求鮮少ナルヲ以テ)銀ノ
産出ハ減サスベシト是レ人々ノ一般ニ思想スル所ナリ
若シ夫レ我輩ヲシテ廣ク世界中其地質ノ組織ニ由リ極メテ金
分ヲ含有スベシト想像セラル、鑛地ニ就キ從來之レカ鑛鑛ニ
從テ採金セシ高ハ今日ニ於テ既ニ世界中ニ含有セラル金分
總額ノ半ニ過キタルヲ知ルベシ(勿論右ノ如キ計筭ハ之レヲ今
日ニ於テ精細ナラシムル能ハス然レモ余ヲ記述スル所ハ老熟
ナル地質學者ノ所論ニ拠ル)而シテ其採取セシ金額ハ既ニ世ニ流
通スルモノ亦知ルベシ此ノ如クナレハ産金地ノ全ク尽クルノ期
アルベキヲ亦考察セサルベカラズ
故ニ金ノ産出減サスヘキ時期アルベシ而シテ世界ノ人口續々ト

レテ増殖スルニ從テ流通貨幣又續々増加スヘシ之ニ由テ觀レ
ハ金ノ需要倍々多クナルヲ以テ蓋シ産金ノ其ノ需要ニ應スル
ニ足ラサルニ至ルヘシ此ノ如キ思量計筭ハ實ニ誣言ニアラザ
ルナリ
夫レ地ヲ下ル一深奥ハ所ニ於テ金ヲ發見スルハ得ベシト沈思
スヘシト虫氏古ヨリ今ニ至ルマテ右ノ如キ深キ処ニ世人ノ金
ヲ需メタルノミナラズ到底現今既ニ採取セルヨリ一層深キ場
所ニ於テハ地熱增長シテ人ノ呼吸生存スル能ハザル程ナルヲ
以テ此ノ如キ所ニ於テ金ヲ採取スルハ人類ノ及ハザル一ハ古
今ノ經驗ニ徴シテ瞭然タリ
爰ニ金銀ハ其産出ヨリ生スル成果ノ全ク異ナリタルモノナル
トテ記載スル亦益ナレトセズ
抑モ金ノ産出ハ過半會社ノ手ニ成レリ此ノ會社トハ株主經營

スルモノニシテ此ノ株主ハ目ヲ採金ノ業ニ從事セス唯タ利益
配当ノ多カラシラ欲望スルノミ此ノ如クナレハ職工産金地ニ
蒼萃シテ殖民スルノ成果アリ

銀ハ然ラス銀ノ確然トモテ産出スル地ハ其所有及ヒ開採スル
ノ権理加利福尔尼亞ニ例アル如ク十カ八九ハ永ク回家ノ手ニ
属スレバ銀ノ産出ハ其ノ成果甚ク確トシテ願ル開明ニ進ムノ

功績アリ

入銀貨ノ既往ヲ看スヤ金ハ中心ヨリ東方ニ向テノ輸出入スル
ト茲氏貿易帯ノ遠ク及那及ヒ亞非利加ニマテハ頻ニ流出ス
ルヲ

塊地利國ノ「マリア、テレジエレ、タオレル」ノ貨幣ハ亞非利加ノ各部
及ヒ歐洲人ノ未タ到ラサル諸部ニ於テモ既ニ人々ノ能ク知レ
ルヲ以テ觀レハ銀貨ノ世上ニヨク流通スル知ルベキナリ

故ニ今日ニ於テ銀ヲ鑄造シテ通貨トスルハ其目的實ニ當ラ得
タルモノトス

世界各國ノ交通ヲ自由ニスルニハ本位貨幣ハ比隣ノ國々ト同
及的同一ナラシムルヲ要ス何トナレバ其貨幣ハ本位比隣ノ國
々ニ比シテ賤劣ナレバ一種ノ輸入品トナリテ此國ニ流入スヘ
シ又右ニ反シテ其ノ貨幣ノ本位比隣ノ國々ヨリ稍貴重ナレ
ハ輸出品トナリテ此國ヨリ流出スベシ而シテ貨幣ノ本分タル交
換ノ媒物即チ世上ニ流通スルノ効カヲ失ヒ到底一高品トナル
ベキヲ以テナリ

銀ノ産出過額ニ涉リタル危害ヲ預防シ且ツ貨幣市場ニ於テ銀
價ノ高低ナカラシムル為メノ方法アリヤ曰ク之レアリ唯タ一
ノミ此ノ方法ハ即チ唯消費者ノ數ヲ増加スルニアルノミ
銀ノ減サスルニ及テ徒未銀ハ不用ナリトシテ全ク除去シタリ

レモ)若し世界各國ニ於テ銀ノ流通ヲシテ盛大ナラシムレハ是
レニ由テ貿易ノ一般ニ隆盛ニ至ルヘキハ昭々乎トシテ夫レ明
白ナリ
故ニ銀ノ流通ヲシテ盛大ナラシムル企ニ就テハ海陸ノ通路ヲ
新開シ又ハ之レヲ改良スルハ上文ニ明説セシ銀ノ消費者ヲ増
加スルノ一大助トナルベシ
歐洲各國ハ銀ヲ幣ニ扱入スルノミナラス又之レヲ國外へ輸出
セサルベカラス

人口年々ニ増殖シ從テ穀類ノ需求増加スレハ其ノ供給増
加スヘシ然レハ金銀及ヒ石炭ニ至リテハ然ラス金銀及ヒ石炭
ノ如キハ世界創メテ成ルノ際造化自然ノ妙エヲ以テ地中ニ産
セシモノ、ミニテ決シテ其需求ト共ニ増加スルナリ而シテ今
日ニ於テハ之レヲ採取シテ唯タ使用ニ供スルノミ然ラハ則チ

仮令ヘハ新開ノ國ニ銀ヲ輸出スルコトアレバ此銀ノ後年ニ至リ
復タ之レヲ要スル地ニ向テ帰順シ各國ニ流通シテ止マサルモ
ノナルヤ明ケシ此ノ如クナレバ銀ハ金ノ補助ヲ得テ初メテ共
ニ流通固有ノ職ヲ尽スモノナラザランヤ

一千八百七十八年十一月十九日

ヘンリー・フオン・シーボルト

